

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 051	提案機関名 長井町漁業協同組合
要望問題名 トラフグ種苗生産技術開発と種苗放流調査の拡充等について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 当漁協は1995年から県内で初めてトラフグ延縄漁を始め、最初の頃の漁は芳しくありませんでしたが、2008年より県水産技術センターの種苗生産～放流試験の効果もあり漁が安定し、2021年度はこれまでで最高の漁獲量となり、さらに同年11月には「天然・釣物 相模のとらふぐ」としてかながわブランドに登録されました。 これも水産技術センターの協力・支援の賜物であり、誠に感謝いたします。 今後も、トラフグ資源の維持管理～ブランド品として更なる増産を図るため、下記事項を要望致します ①本県で漁獲されたトラフグ親魚を用いた人工採卵による種苗生産量の安定化 ②トラフグの回遊や分布状況を把握するためのタグを用いた標識放流調査	
解決希望年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター   ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター   ④自然環境保全センター
備考 トラフグ親魚を用いた人工採卵等を実施する折には、産卵に適した親魚提供等で協力致します。	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中   ③継続検討   ④実施済   ⑤調査指導対応   ⑥現地対応   ⑦実施不可		
試験研究課題名    (①、②、④の場合) 新栽培対象種の放流技術開発研究			
対応の内容等 ○ 当センターでは、トラフグ種苗の安定生産等を目的として、令和5年度より本県で漁獲されたトラフグ親魚を用いた人工採卵技術の開発に着手しました。今年度は開始初年度にして700万粒以上の採卵に成功し、小規模ながら県内採卵種苗の放流を実現することができました。来年度以降も引き続き、本県産親魚からの人工採卵技術の開発を進め、種苗生産量の安定化を図ります。 ○ 分布・回遊の調査については、令和6年度から実施を予定しています。内容は、漁業者が従来から再放流している700g未満のトラフグに外部標識を装着してもらい、かつ日々の漁獲状況を記録してもらおうと考えています。また、再捕報告依頼のポスターを配付する等の追跡調査も併せて行う予定です。この調査から、700g未満放流による資源管理効果や本県で漁獲されるトラフグの回遊範囲を明らかにします。			
解決予定年限	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
備考			